



不治の病に朗報

宮古・磐井病院に人工じん臓装置設置

じん臓の病気は難病、特に、慢性じん臓炎は回復不可能とさえいわれている。この難病にも救いはある。それが人工じん臓装置である。(他にじん臓移植も有効)

この人工じん臓装置が、さきごろ宮古・磐井の両県立病院に各2台設置された。すでに設置されている中央病院の4台とあわせ県立病院では8台。医大病院などその他の病院の9台とあわせ、これですべて県内では17台となった。この装置は、いわばダメになったじん臓のかわりをしじん臓の働きである身体の老廃物の除去などを、この装

置を通じ行なうもの。病気の程度に応じ週1~2回の通院により、回復不可能あるいは絶対安静だった方々の社会復帰の一助とするものである。

この装置が1人でも多くの方々の助けとなるようフル回転が望まれる。全国の年間じん臓病での死亡者が1~2万人といわれていることから、人工じん臓装置のより一層の充実が期待されることである。

(県立宮古病院の装置)

